

## 第4 平成24年度 子ども施策の推進に向けた各部署の取組

### (1) 地域における子どもの育ち・子育て支援

#### ①多様な子育てサービスの充実

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
預かり保育の推進	私立幼稚園において、地域の実態や保護者のニーズに応じ、正規の教育時間開始前や終了後、及び休業日に教育活動を実施するための人件費に対し助成を行った。 (助成法人数：28法人)	学校法人	221	⑤	環境生活部 私学課
放課後子ども教室の推進	放課後児童対策の一つとして、放課後や週末等に小学校の余剰教室等を活用して、活動場所を設け地域の方々の参画を得て文化スポーツ学習活動などの取組を通して子どもが地域社会の中で健やかに育まれる居場所づくりを実施した。 (実施地域：20市町、教室数：60教室)	市町	232	④ ⑤	健康福祉部 子ども・家庭局 子どもの育ち推進課
放課後児童健全育成事業の推進	放課後児童対策事業費補助金を支給する等、市町が行う放課後児童クラブ施策を支援した。 (実施地域：29市町、クラブ数：292クラブ 平成24年5月1日現在)	市町	232	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局 子どもの育ち推進課
保育士に対する研修の実施	保育士の資質や専門性を高めるため、人権問題についての正しい知識を習得するために、保育士の研修を実施したり、保育士の資質の向上に向けて研修を実施する市町等を支援した。 (人権保育専門講座：8か所、18講座)	保育士等	232	④	健康福祉部 子ども・家庭局 子育て支援課
保育所に対する支援	地域の実情にあった保育体制の円滑な運営を進めるため、保育所整備や運営の支援を行った。 (保育所：創設1か所、増改築6か所、大規模修繕6か所、認定こども園1か所)	市町	232	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局 子育て支援課
特別保育の促進	市町が実施する延長保育(174か所)、休日保育(12か所)、一時預かり(80か所、病児・病後児保育(9か所)など多様な保育サービスを支援した。	市町	232	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局 子育て支援課

#### ②子育て支援環境の充実

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
子育て支援活動の推進	私立幼稚園が施設や教育機能を活用し、保護者や地域の人々に子育て支援活動の推進事業を実施するための経費に対し助成を行った。 (助成法人数：27法人)	学校法人	221	⑤	環境生活部 私学課
幼稚園教育研究協議会の開催	県内の国公私立幼稚園等関係者、市町教育委員会関係者及び県内の保育所関係者を対象に、幼稚園の教育課程の編成及び実施をはじめとする幼稚園教育に関する指導上の諸問題等について研究協議し、教員の指導力を高め、本県における幼稚園教育の振興・充実を図った。 (開催日：8月9日、参加者数：367人)	幼稚園教諭等	221	④ ⑤	教育委員会事務局 小中学校教育課
いじめや暴力行為等の問題行動への対応	子どもの心のケア及び保護者、教職員への助言・支援を行うスクールカウンセラーを配置するとともに、福祉的な視点から問題解決を支援するスクールソーシャルワーカーを派遣し、学校における教育相談体制及び関係機関との連携を図った。 ・スクールカウンセラーの配置校：313校(小学校123校、中学校159校、高等学校31校) ・スクールソーシャルワーカーの配置：4人を県教育委員会に配置	児童生徒、保護者	221	⑤	教育委員会事務局 生徒指導課
親なびワークの活用	参加者がワークシートのテーマに基づき、子育ての思いや悩み、不安などを語り合い、共感する中で、親の役割や自身の成長について、気づき、学び合う機会を提供する参加型のプログラム「親なびワーク」の活用などを行った。 (実施回数：18カ所、参加者数：445人)	大人	231	④ ⑤	健康福祉部 子ども・家庭局 子どもの育ち推進課
子育て家庭応援クーポン	地域の商店や企業の協賛による、18歳未満の子育て世帯に対して割引やサービスの提供を働きかけた。 (協賛企業数：316企業 平成25年3月31日現在)	子ども、大人	231	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局 子どもの育ち推進課

### ③子どもの育ちを支える環境づくりの推進

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
認知症サポーター養成講座	子どもたちを対象に、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る「認知症サポーター（キッズサポーター）」を養成するための講座を9月に2回開催し、高齢者の尊厳や社会に与える子どもの力の大ささについて子ども自身が学ぶ機会とした。 （対象：小学6年生と中学3年生に各1回開催）	小学6年生、中学3年生	141	① ③	健康福祉部長寿介護課
教育委員会事務局「職場体験デー」	教育委員会事務局職員の子どもの対象に、職場で働く親の姿をみてもらうことにより、子どもが親の職業に対する理解を深める機会とするとともに、職場においても、職員が子育てに携わる一人の親であることの理解を深め、職場で次世代育成支援の雰囲気醸成する機会とした。 （参加者数：21人）	子ども（小学生）、大人（事務局職員）	221	⑤	教育委員会事務局 教職員課
キッズ・モニターアンケートの実施	県の施策に子どもの意見や状況を取り入れるため、「e-モニター」制度を活用して子どもを対象に定期的な電子アンケートを実施した。（8回実施） （実施部署及びテーマ） ・子どもの育ち推進課 「子どもへの支援について」「家庭の目について」「子ども相談電話について」 ・健康づくり課「食について」 ・地域支援課「農山漁村でのいなか体験について」 ・農産物安全課「食の安全安心について」 ・県土整備総務課「三重県の公共土木施設の工事について」 （継続） ・社会教育・文化財保護課「小・中・高校生の体験活動について」	小学4年生～高校生	231	②	健康福祉部 子ども・家庭局 子どもの育ち推進課 医療対策局健康づくり課 地域連携部 地域支援課 農林水産部 農産物安全課 県土整備部 県土整備総務課 教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
こども会議の実施	子どもが意見表明をする機会の提供や、主体的に取り組む活動の支援を目的に、県が設定したさまざまなテーマについて、小学生から高校生までのグループが自らの意見などをまとめて県に届ける「とどけ！こども会議」と、自らの思いや考えを地域のイベントなどにおいて実現する「やるぞ！こども会議」を実施した。 （とどけ！こども会議：1回、やるぞ！こども会議：5回）	小学生～高校生 子育てサポーター	231	① ② ③	健康福祉部 子ども・家庭局 子どもの育ち推進課
「みえの子ども白書フォーラム」の開催	「みえの子ども白書」から見えてきた子どもと大人の意識の違いなどについて、保護者や地域の大人が理解を深め、大人が子どもの育ちを考える機会としてフォーラムを開催した。フォーラムのなかで、子どもが大人に向けて「大人に伝えたいまくちわたしたちの気持ち」を発表した。この発表にあたっては、事前に小学生・中学生・高校生班に分かれて「こども会議」を9月と10月に合計3回開催した。 （開催日：12月11日、場所：県庁講堂、参加者数：173人）	子ども、大人	231	① ② ④	健康福祉部 子ども・家庭局 子どもの育ち推進課
「三重県子ども条例」啓発講演会の実施	「三重県子ども条例」について広く県民に啓発するために、みえ出前トーク等の大人対象啓発講演会（4件）、高校生を対象にした高校生権学習での講演活動（1件）を実施した。	子ども、大人	231	① ④	健康福祉部 子ども・家庭局 子どもの育ち推進課
家族の絆 一行詩コンクールの実施	温かい気持ちのやりとりのなかで、子どもが安心して自分らしく育つことを期待して、「ありがとう」をテーマにした一行詩を募集した。また、「一行詩に込められた想いや絆を広く共有し、さらに「ありがとう」の輪が広がるように、入選作品について作品集を作成し、保育園や幼稚園、学校をはじめ、子どもに関連した機関や団体に配布した。 （応募作品数：7,017作品 作品集作成数：5,000冊）	子ども、大人	231	② ⑤	健康福祉部 子ども・家庭局 子どもの育ち推進課
みえこどもの城の運営	みえこどもの城において、児童の健康を増進し、情操を豊かにすることを目的に、児童に健全な遊びを提供した。（運営については、指定管理にて民間団体に委託している。） ・ドーム映画の上映やプラネタリウムの投影 ・プレイランドの遊具やカブラ（積み木）の設置 ・演奏会、マジックショーなどの開催 ・工作メニューの提供や理科実験・観察メニューの体験 ・クライミングウォールの設置 ・各種展示・各種イベントの実施	子ども、大人	231	③ ④	健康福祉部 子ども・家庭局 子どもの育ち推進課

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
みえの子育ちサポーターの養成	地域において子どもの育ちを見守り子どもの主体的な活動を支える人材として「みえの子育ちサポーター」を養成するために、出前講座や公開講座を実施した。 (みえの子育ちサポーター養成数：1,532人、出前講座：28回、公開講座：2回)	大人	231	④	健康福祉部 子ども・家庭局 子どもの育ち推進課
みえ次世代育成応援ネットワークの活動促進	社会全体で子どもや子育て家庭を支える地域を実現するために、地域の担い手である企業や子育て支援団体等が参画し活動している「みえ次世代育成応援ネットワーク」の会員拡大及び活動促進を図った。 (会員数：1,124〈企業：626、団体498〉平成25年3月31日現在)	大人	231	④	健康福祉部 子ども・家庭局 子どもの育ち推進課
「子育て支援」活動の支援	地域において「子育て支援」の輪を広げることが目的として、みえの子育ちサポーターを中心としたグループに、子どもの育ちに関する情報収集や理解を深めるための場づくり活動などを委託した。 (委託件数：8件)	大人	231	④	健康福祉部 子ども・家庭局 子どもの育ち推進課
子育て支援活動拠点の設置・運営	子どもの育ちを応援する「みえのこども応援プロジェクト」の活動拠点として、商業施設に「よっかいちステーション」を設置し、毎週火曜日と第1土、日曜日に、企業や団体等がボランティアとして、おもちゃの病院、太鼓体験、工作など、親子がふれあひながら楽しむ機会を提供した。 (場所：ララスクエア四日市、実施日数：76日、出展団体数：13団体)	子ども、大人	231	④	健康福祉部 子ども・家庭局 子どもの育ち推進課
家庭の日協力事業所	子どもの豊かな育ちにおける家庭の果たす役割の重要性について理解を深めるため、「家庭の日」を活用して家族の絆を深められるような取組等を実施する企業・事業所を「家庭の日」協力事業所として登録し、その取組内容を県ホームページ等で紹介した。 (登録事業数：81事業所 平成25年3月末現在)	大人	231	④ ⑤	健康福祉部 子ども・家庭局 子どもの育ち推進課
子育て応援！わくわくフェスタの開催	企業、地域の団体、学生ボランティアなどの多様な主体が参加し、子ども向けの体験や遊び、子育て情報の提供、日頃の活動発表などを多彩に行うことにより、県民にさまざまな情報を発信し、「子育て・次世代育成支援」の気運醸成を図るとともに、互いに連携・協働・交流し、子育てを応援する地域づくりを一層推進する催しを開催した。 (開催日：平成25年2月16日・17日、場所：県営サンアリーナ、来場者数：27,000人、学生ボランティア参加数：318人)	子ども、大人	231	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局 子どもの育ち推進課
総合型地域スポーツクラブの育成支援	総合型地域スポーツクラブは、県民の誰もが、身近で気軽に、生涯にわたって、目的に応じたスポーツ活動ができる環境づくりを目指して地域住民が自主的運営を行うスポーツクラブであり、地域コミュニティづくりや青少年健全育成にも寄与するものである。県としては、クラブの安定した運営と定着を図るため、各クラブを訪問し専門的な指導・助言を行い、また、メールマガジンを配信しスポーツ情報を提供している。 (クラブ訪問回数：116回、メールマガジン配信：30回、クラブミーティングのべ参加者数：111人)	子ども、大人	241	④	地域連携部 スポーツ推進局 スポーツ推進課
「熊野古道を伝える」小冊子の配布	地域の次世代を担う層が、熊野古道に対する理解を深めるとともに、将来、自ら地域内外にその魅力を発信していくことができるように、東紀州地域の小中学生を対象に「熊野古道を伝える」小冊子を作成・配布した。 (発行回数：1回、作成部数：4,000部、うち2,260部を東紀州地域の小中学校へ配布)	東紀州地域の小・中学生	252	⑤	地域連携部 南部地域活性化局 東紀州振興課
人材育成講座	市町行政や関連施設等と連携しながら、社会の要請に対応できる地域指導者の人材育成講座を実施した。テーマは子ども読書活動推進、子育て支援等、市町のニーズに基づき決定した。 (子どもをテーマにした講座：本へのきっかけスキルアップ講座「ブックドクターの“伝えたい!!子どもの力・本の力”」など3回実施)	大人	261	④	環境生活部 文化振興課
発明くふう展	子どもたちの発明・発見への関心をいっそう高め、ものづくりの楽しさや未来の科学への夢を喚起し、子どもたちの「科学の心」を育成することを目的として、子どもたちによる「作品、絵画などを募集する「発明くふう展」を開催した。 (開催日：10月19日～21日、開催場所：イオン津南ショッピングセンター 参加者：1,024人)	園児～高校生	324	② ③ ⑤	雇用経済部 ものづくり推進課

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
Jr.ロボコン2013 in 三重	ものづくりの楽しさと科学技術の素晴らしさを体験できる青少年のための企画として、県内の小・中学生を対象にした宿泊型ロボット作成キャンプを実施した。 (開催期間：8月16日～19日の3泊4日 開催場所：四日市市少年自然の家、ララスクエア四日市)	県内小・中学生	324	③、⑤	雇用経済部 ものづくり推進課
みえサイエンスパーク（ホームページ）	科学技術についての子ども向けホームページで、家で簡単にできる実験や県の各研究所（工業研究所、保健環境研究所、農業研究所、畜産研究所、林業研究所、水産研究所）の研究内容をわかりやすく紹介した。	子ども、大人	324	⑤	雇用経済部 ものづくり推進課
「三重県体験学習ガイドブック」の説明、配布	県内の小中学校教務担当者を対象に、県内での社会見学等について説明する際、子ども達が自然体験やモノづくり学習・体験などを実施できる県内の施設を、「三重県体験学習ガイドブック」により紹介した。 (実施日：8月2日、8日、10日、20日、21日、24日 参加者：555人)	大人（小中学校の教務担当者）	342	③	雇用経済部 観光・国際局 観光誘客課
リニア中央新幹線夏休み親子学習会	次の世代を担う子どもたちを対象に、リニア中央新幹線に関する学習会を開催し、リニア中央新幹線の全線同時開業に向けた啓発を行った。 (開催日：8月28日、参加者：30人〈小学生18人、保護者12人〉)	小学生とその保護者	352	⑤	地域連携部 交通政策課
県庁見学	広く県民に対して県庁見学の機会を設け、県庁内の執務スペースや、県政の取り組み状況、議事堂本会議場また県庁屋上からの伊勢湾や津市の街並み等を実際に見学することで、県庁・県政への関心・理解・親近感を深める機会とした。 (受入件数：52団体、2,691人)	子ども、大人	行政運営6	①、⑤	戦略企画部 広聴広報課
みえ出前トーク	みえ出前トークは、県が重点的に取り組む事業や県政の課題等をテーマに設定し、希望テーマにかかる県民集会に職員が出向いて説明するとともに意見交換を行うことで、県民と県とのコミュニケーションの向上を図ることを目的として実施しており、子どもの育ちを見守り、支えるための様々なテーマについてもとりあげた。 (「子どもの育ちと子育てに関するテーマ」数：3件、実施回数：18回、参加者数：1,763人)	子ども、大人	行政運営6	①、⑤	戦略企画部 広聴広報課
統計グラフ三重県コンクール	小・中学生を中心に県内から統計グラフを募集し、作品の制作を通じて統計に対する関心を深めるとともに、統計の表現技術の向上に役立てることを目的として実施した。また、参加者全員に参加賞、優秀作品には知事賞等の授与を行った。 (実施期間：6月～9月、参加者数：216人)	子ども（小・中・高校生等）、大人	行政運営6	②	戦略企画部 統計課
明るい選挙啓発ポスターコンクール	選挙が明るく正しく行われるよう啓発用のポスターを募集し、県審査特選作品については中央審査へ出品した。主催は（財）明るい選挙推進協会、都道府県選挙管理委員会連合会等で文部科学省、都道府県教育委員会の後援 (参加校数：県内16市町117校 参加人数：1,620人)	小学生、高校生		②、⑤	選挙管理委員会
未来の有権者啓発事業（中学校生徒会選挙（小学校児童会選挙）への協力）	若者の選挙離れを食い止める啓発事業として、少しでも政治・選挙に関心を持ってもらえるよう、生徒会（児童会）選挙において国政選挙等で使用する本物の投票用紙、投票箱、投票記載台、氏名掲示等を将来の有権者である生徒（児童）に体験してもらった。生徒会（児童会）選挙後には20歳の自分あての手紙を生徒（児童）に書いてもらい成人式の年に県選管から送付する。 (参加人数：平成24年10月に小学校1校173人、平成25年3月に中学校1校298人)	小学生・中学生		⑤	選挙管理委員会

#### ④子どもの育ち・子育てに関する相談の充実

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
みえ子ども医療ダイヤル（#8000）	子どもの急な病気や事故、薬に関する心配について、小児科専門医師が電話相談に応じた。 ・相談時間：毎日19時30分～23時30分 ・相談件数：6,636件	大人	121	⑤	健康福祉部 医療対策局 地域医療推進課

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
少年相談110番	家庭問題、交友問題、学校問題、犯罪被害等少年や保護者等の悩みや困り事の相談に応じ、指導・助言を行った。 ・フリーダイヤル ・相談時間：祝祭日、年末年始を除く月から金曜日9時から17時 ・相談件数：30件（平成24年中）	子ども、保護者、教職員等	131	⑤	警察本部少年課
子ども専用相談電話	相談員が子どもの悩みなどを聴き、子どもと一緒に解決方法を考える子どものための相談電話「子どもほっとダイヤル」を運営した。 ・フリーダイヤル ・相談時間：年末年始を除く毎日13時～21時 ・相談件数：3,145件	子ども	231	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局子どもの育ち推進課
いじめ電話相談	子ども、保護者等を対象にいじめ電話相談を実施した。また、関係機関と連携し、解決に向けて取り組んだ。 ・相談時間：年末年始を除く平日9時～20時、土日祝日9時～18時 ・相談件数：231件	子ども 保護者等	221	⑤	教育委員会事務局 研修企画・支援課
教育相談	子ども、保護者、教職員を対象にプレイセラピーやカウンセリング等の面接相談、電話相談を実施した。 ・相談時間：年末年始祝日を除く 月水金9時～21時、火木9時～17時 ・相談件数：（面接）5,970件、（電話）1,816件	子ども 保護者 教職員	221	⑤	教育委員会事務局 研修企画・支援課
体罰に関する電話相談	子ども、保護者等を対象に体罰に関する電話相談を実施し、関係機関と連携し、解決に向けて取り組んだ。 （平成25年2月1日開設） ・相談時間：年末年始祝日を除く 月水金9時～21時、火木9時～17時 ・相談件数：43件	子ども 保護者等	221	⑤	教育委員会事務局 研修企画・支援課

## (2) 子どもの健康づくりの推進

### ①母子保健対策等の推進

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
学校保健課題解決支援事業	現代的な健康課題の解決を図るため、メンタルヘルス、歯と口の健康づくり、性に関する指導を重点課題とし、学校、家庭、地域社会が連携して、社会全体で子どもの健康づくりに取り組むよう、支援体制を検討する協議会を開催した。また、市町等を推進地域に指定して、地域の医療機関及び行政関係者からなる学校保健課題解決支援チーム等を設置し、課題解決に向けた取組やネットワークづくりを推進した。	小中学校・県立学校の児童生徒及び保護者、教職員	221	⑤	教育委員会事務局 保健体育課
小児慢性特定疾患治療研究事業	小児慢性疾患のうち特定の疾患にかかっていることにより、長期にわたり療養を必要とする児童等の健全な育成を図るため、当該疾患の治療方法に関する研究等に資する医療の給付その他の事業を行った。	厚生労働大臣が定める特定疾患にかかっている20歳未満の児童等	232	④	健康福祉部 医療対策局健康づくり課
思春期ピアサポーター養成事業	思春期の性や悩みを気軽に相談できる仲間として大学生をピアリダー・ピアサポーターとして養成し、中高生に対し世代の近い仲間として性に関する正しい情報を提供する等、ピア活動（仲間教育）を実施した。 （養成人数：29人）	大学生・中学生・養護教諭等	233	② ④	健康福祉部 子ども・家庭局子育て支援課
妊娠レスキューダイヤルの設置	若年層の望まない妊娠で周囲に相談できない等子どもたちの悩みに対する電話相談窓口を平成24年11月から週3日開設し、医療・保健・教育・福祉等関係機関が連携し早期からサポートすることで児童虐待の未然防止に努めた。 （相談件数：17件 平成25年3月末）	若年層（10代）	233	② ⑤	健康福祉部 子ども・家庭局子育て支援課
児童保護措置費負担金	市町が行う助産の実施又は母子保護の実施に要する費用について、1/4を負担した。	市町	233	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局子育て支援課
思春期保健指導セミナー	中高生の性や望まない妊娠等、思春期の子どもたちや家族が抱える性にまつわる問題を関係者が共通理解し、各々の機関で実践に活かす手法を学ぶ目的でセミナーを開催した。 （開催日：平成25年2月11日、場所：三重県医師会館、参加者数：274人）	大人（医療関係者・教育関係者、保健関係者等）	233	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局子育て支援課

## ②食生活と健康づくりの推進

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
給食施設巡回指導	給食を実施している保育所等児童福祉施設、私立幼稚園及び学校に栄養指導員が巡回し、管理栄養士、栄養士の配置及び適切な栄養管理等の実施について指導助言を行うとともに、食育の視点も捉えた指導を実施した。 (巡回指導施設数：85施設)	施設管理者及び給食従事者	123	③	健康福祉部医療対策局健康づくり課
モーニング・ページ(野菜フル350)の普及啓発	幼児の保護者を対象とした健康教育などあらゆる機会を捉え、朝ごはん習慣をつけるとともに、野菜摂取不足の解消を図るため、朝ごはんにおいて野菜を食べることを啓発した。 (実施回数：32回、参加人数：5,913人)	子ども、大人	123	⑤	健康福祉部医療対策局健康づくり課
みえの地物が一番！朝食メニューコンクール	小学校5・6年生を対象に子どもたち自身が地場産物を使用した朝食メニューを考え、調理するコンクールを実施した。この取組を通して、自らの食生活に関心を持ち、望ましい食習慣を身につけることや食の大切さ、地場産物とその生産者について理解を深めた。	小学校・特別支援学校の児童及び保護者、教職員	221	⑤	教育委員会事務局 保健体育課
みえ地物一番給食の日	食生活や人格の形成期にある子どもたちを対象に、毎月第3日曜日の直前の木・金曜日を中心に「みえ地物一番給食の日」に設定し、地場産物を使用した学校給食と食育に取り組んだ。市町の取組を啓発するため、特に6、11月を強化月間とし、各地域の取組(給食献立)をホームページで紹介した。また、各地域で実施している地場産物を活用した食育の取組や、「みえ地物一番給食の日」に実施した取組等を事例集にまとめ、県内の学校に配布するなど、地場産物を活用した食育の普及・啓発を図った。 (学校給食における地場産物の活用状況：28.7%)	小中学校・特別支援学校の児童生徒及び保護者、教職員	221 311	⑤	教育委員会事務局 保健体育課 農林水産部 フードイン ベーション課
学校給食用牛乳供給事業	①学校給食用牛乳の安定的な供給に向けて、保護者負担額の軽減を図った。 (小中学校、夜間高校、特別支援学校：562校) ②国産牛乳を使用した発酵乳製品を、牛乳に加えて給食に供給する学校に対し、保護者負担額の軽減を図った。 (小学校等：33校) ③就学前幼児の牛乳飲用定着化、体位向上に向け、保育所等における牛乳の新規飲用増加分に対して奨励金を交付した。 (保育所：1か所)	保育所、幼稚園、小学校、中学校、夜間高校、特別支援学校	312	⑤	農林水産部 畜産課

## ③思春期のこころの健康づくりの推進

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
若者自殺防止のための精神疾患早期支援事業	若者の自殺を予防することを目的として若者のメンタルヘルスに関する支援および精神疾患の早期支援を行う体制を整備した。 ・教職員を対象とした研修：7回 ・生徒を対象とした自殺予防の授業：13回 ・保護者を対象とした講義：1回 ・保護者及び教職員対象の啓発活動：17回 ・精神疾患の専門相談：316件 ・復学・復職プログラムの実施：25回、利用人数：延べ95人 ・親子の会の開催：1回 ・県民等への啓発研修等の開催：2回	主に中高年生及びその保護者・学校関係者	123	④	健康福祉部医療対策局健康づくり課
デートDV出前講座	自分も他人も大切にする考え方と自己肯定感を育むために大学生・専門学校生・高校生等を対象として「デートDV防止出前講座」を実施し、デートDVの未然防止と将来の配偶者間暴力の予防をすすめた。 (実施回数：30回)	高校生、大学生	212	① ⑤	健康福祉部 子ども・家庭局 子育て支援課
デートDV予防啓発	デートDV予防教材(リーフレット)を県立高校の全生徒に配布し、デートDVの未然防止と将来のDV(配偶者間暴力)の予防啓発、相談機関の周知を行った。 配布数：11,000部	高校生	212	⑤	環境生活部 男女共同参画・NPO課
デートDV実態調査	高等学校、大学に通う学生を対象に、デートDVに関する実態調査を行った。 調査期間：9月～12月 調査対象：県立高校(全日制)55校、私立高校2校、国公立大学・短期大学1校、私立大学6校	高校生、大学生	212	⑤	環境生活部 男女共同参画・NPO課

#### ④医療の充実

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
地域医療に関する啓発	「県政だよりみえ」により、平成24年6月から1年間、かかりつけ医療を持つことのメリットや医師・看護師等の状況、二次・三次救急医療機関の現状などについて連載し、地域医療に関する啓発を行った。また、地域の医療を守る行動等につながるようメディアを活用した啓発、一言メッセージの募集等による啓発キャンペーンを実施した。	大人、子ども	121	33	健康福祉部 医療対策局地域医療推進課
救急医療情報システム事業	救急車を呼ぶほどではない軽症者が、休日や夜間等に医療機関を受診したいときに、電話案内やインターネットによる閲覧により、受診可能な医療機関を案内する救急医療情報システムを運営した。 （電話案内件数：85,138件、ホームページアクセス件数：235,095件）	大人	121	33	健康福祉部 医療対策局地域医療推進課
医師修学資金貸与制度	将来、三重県で地域医療の担い手となる医師の育成をめざして、一定期間県内医療機関で勤務することを返還免除条件とする医師修学資金を医科系大学の学生に貸与した。 （平成24年度新規貸与者67人、平成25年3月末現在貸与者累計：348人<返還者を除く>）	医学生	121	34	健康福祉部 医療対策局地域医療推進課
地域医療支援センター事業	県内の医師不足の状況等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に医師不足病院の医師確保支援等を行うなど、医師の地域偏在の解消に向けた取組を進めた。 ・三重県地域医療支援センターを設置（5月） ・地域の医療関係者からなる運営協議会を開催（7月10日、12月27日） ・1つの診療領域の後期臨床研修プログラムの作成に着手 ・医学生、研修医を対象とした説明会の開催（12月18日） ・地域医療支援センター広報誌の発行（平成25年2月）	医学生、研修医	121	34	健康福祉部 医療対策局地域医療推進課
地域周産期医療再生計画事業	北勢地域の周産期医療体制を確保するため、周産期母子医療センターのNICUやMFTUなどの整備に対して支援した。（市立四日市病院及び県立総合医療センターのNICU関連整備に補助を行った。）	病院	121	34	健康福祉部 医療対策局地域医療推進課
医学部進学セミナー	三重大学医学部では52人の生徒が医学に関する講義や医療科学技術に触れたり、紀南病院へは35人が訪問したことで、医学部医学科を目指す生徒の勤労観・職業観が醸成できた。（計3回実施）	高校1,2年生	221	35	教育委員会事務局 高校教育課
高等学校における看護師養成	桑名高等学校に設置されている衛生看護科・専攻科において、地域医療を支える看護師の養成を行った。	高校生	221	35	教育委員会事務局 高校教育課
子ども医療費補助金	子育てに対する経済的負担を軽減し、子育て環境を整備するため、市町が実施する子ども医療費助成事業に要する経費の1/2を補助した。なお、9月から、県から市町への補助対象を、就学前から小学校6年生の入通院まで拡大した。 ・事業実施市町：29市町 ・決算額：1,688,920千円	市町	232	35	健康福祉部 医療対策局 医療回保課
一人親家庭等医療費補助金	一人親家庭等が医療を受けられる環境を整え、福祉の向上と健康の保持増進を図ることを目的として、市町が一人親家庭等に実施する医療費助成事業に要する経費の1/2を補助した。 ・事業実施市町：29市町 ・決算額：116,289千円	市町	232	35	健康福祉部 医療対策局 医療回保課

### (3) 心身の健やかな成長のための環境の充実

#### ①健やかな心身を育む教育の推進

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
地域に密着した普及啓発事業	人権擁護委員が保育所、幼稚園、小・中学校を訪問し、親しみやすく分かりやすい啓発資料（紙芝居、絵本、人形劇等）を用いた人権教室を開催した。 （訪問回数：271回）	園児、小学生	211	31	環境生活部 人権課
人権まなびの発表会	差別やいじめ等の諸課題の解決に向けて主体的に行動し、未来を切り拓く実践力を高める「能動的な人権学習」についての実践研究に取り組んできた学校の生徒が、県内1会場において成果発表を行った。 （実施日：10月27日 会場：三重県総合文化センター 参加者：105人（生徒39人、教職員等66人））	高等学校・特別支援学校高等部の生徒及び教育関係者	211	32, 33	教育委員会事務局 人権教育課

取組名	取組概要	対象	実施 番号	条例 基本	担当課
地区別人権学習活動交流会	差別やいじめ等の諸課題の解決に向けて主体的に行動し、未来を切り拓く実践力を高める「能動的な人権学習」の取組について、県内6地区（北勢・中勢・松阪・南勢・伊賀・三重）において、生徒が発表や意見交流を行った。 （6地区合計の参加者数：262人（生徒129人、教職員等133人））	高等学校・特別支援学校 学校高等部の生徒及び教育関係者	211	(2) (3)	教育委員会事務局 人権教育課
移動人権啓発事業	商業施設や地域のイベント等、様々な場や機会を利用してパネル展示、アンケート、啓発物品の配布等を実施し人権尊重の思想を県民に広めた。 （実施回数：12回、アンケート協力者数：994人）	子ども、大人	211	(1) (4) (5)	環境生活部 人権センター
人権メッセージ募集	県民が、差別をなくすために真剣に取り組む、県民一人ひとりが、人権啓発の主体者であることの意識付けに繋がるよう人権メッセージを募集した。 （応募件数：1,866件）	子ども、大人	211	(2)	環境生活部 人権センター
人権ポスター募集	県内の小中高等学校等の児童・生徒が人権について考え、表現する機会としてポスターを募集した。優秀作品により人権カレンダーの作成や巡回展示による啓発を行った。 （取組数：211校 応募数：28,577人）	子ども （小・中・高校生等）	211	(2)	環境生活部 人権センター
人権フォトコンテスト	「自分らしく生きる」「共に生きる姿」「命の大切さ」をテーマに生活の様々な場面における「人権」を感性で捉えたコンテストを開催した。募集・応募・優秀作品の展示の過程を通じて人権尊重を広く県民に啓発した。 （応募件数：373件）	子ども、大人	211	(2)	環境生活部 人権センター
人権に係わる相談員スキルアップ講座	人権の視点での県内各機関の相談員の資質向上を図るため「人権に係わる相談員スキルアップ講座」を実施した。 ・前期講座「精神障害のある親を持つ子どもの現状と支援」等 ・後期講座「いじめ・誘拐・性暴力から子どもを守るために」「被害者のこころ加害者のこころ～いじめ問題をめぐって～」等 （講座数：全16回、参加者数：990人）	大人（人権に関わる相談員）	211	(4)	環境生活部 人権センター
県民人権講座	人権問題に対する理解を深めるため、「ユニークフェイス」「性的マイノリティ」等のタイムリーなテーマで講座を開催した。 （講座数：4回、参加者数：768人）	大人	211	(4) (5)	環境生活部 人権センター
人権相談	人権問題について、相談員による面接相談及び電話相談を実施した。（月～金曜日9時～17時）また、弁護士による法律相談（第1・3水曜日13時～16時（予約制））、臨床心理士によるカウンセリング（第1木曜日9時～12時（予約制））を実施した。 （相談件数：921件、うち子どもの問題に関する相談件数：18件）	子ども、大人	211	(5)	環境生活部 人権センター
スポーツ組織と連携協力した啓発	青少年や地域社会などに大きな社会的影響力を有するスポーツ組織と連携・協力して各種啓発活動を展開した。（日本女子サッカーリーグ「伊賀DJCクロー」） ・人権啓発冠試合（試合数：3回、参加者数：1,525人） ・スポーツ教室等（開催回数：4回、参加者数：325人）	子ども、大人	211	(5)	環境生活部 人権センター
キャリアガイド作成普及事業	外国につながる子ども・保護者向けの進路ガイダンスや、ブラジル人学校及び地域のコミュニティ等を訪問し、直接、「学ぶことの大切さ・教育の大切さ」を伝えた。また、「キャリアガイドDVD」とその使用方法、関係者からのコメント等を紹介するホームページを新たに立ち上げた。 ・キャリアガイド出前セミナー（実施回数：10回、参加者数：275人）	外国につながる子ども つ保護者、 外国につながる小学 高学年・高校生	213	(1) (5)	環境生活部 多文化共生課
日本語指導の充実及びJSLカリキュラムの実践研究の推進	外国人生徒支援専門員を活用し、高校におけるJSLカリキュラムの開発と取組の充実を図り、三重県モデルの確立をめざすとともに、進路指導等のカウンセリングや、保護者を対象とした教育相談等の支援に取り組んだ。	高校生、保護者、教員	213	(4) (5)	教育委員会事務局 高校教育課
多文化共生社会の担い手をつくる外国人児童生徒教育推進事業	日本語指導が必要な外国人児童生徒が、将来、社会の一員として自ら能力を発揮し活躍できるよう、外国人児童生徒の在籍が多い拠点校等のノウハウを生かした受入体制整備を進めるとともに、受入体制が十分に整備されていない学校等へコーディネーターを派遣することにより、当該校の受入体制、適応指導等の充実を図った。また、外国人児童生徒巡回相談員（12人）の派遣等による日本語指導、学校生活への適応指導の充実、日本語で学ぶ力の育成を目指したカリキュラム（JSLカリキュラム）の実践研究を進めた。	小中学校等	213	(1) (5)	教育委員会事務局 小中学校教育課
みえ不登校ネットワークの活動とNPOへの支援	みえ不登校ネットワークとして相互に連携を取るほか、不登校の子どもたちを支援するNPOと市町教育委員会が連携して行っている事業に対し支援を行った。 （対象市町数：1市）	大人	221	(4)	教育委員会事務局 生徒指導課



取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
子どもの心サポート事業	教育相談に関する研修会を実施し、思春期の子どもたちの悩みや不安に対する理解と適切な支援が行えるよう、教職員の資質向上を図るとともに、困難なケース等についてはカウンセリングや心理療法等の面接相談を実施した。 児童生徒の心の問題に対する心理臨床的視点からの理解と対応について学んだ。 (実施研修講座数：36回、受講者数：1,775人) 子どもの心の問題解決に向けて、子ども、保護者、教職員等を支援した。 (面接相談件数：5,970件、電話相談件数：1,816件)	子ども、保護者、教職員	221	④	教育委員会事務局 研修企画・支援課
教職員研修事業	信頼される教職員の育成を図るため、教育現場の実態及び教職員のニーズを踏まえた講座、教職員の経験や役割に応じた研修等を実施した。 また、児童生徒や保護者、地域から信頼される活力ある学校づくりを進めるため、学校経営品質向上活動研修を実施した。 ・教職員研修講座(講座数：461回、受講者数：22,560人) ・学校経営品質向上活動研修(講座数：21回、受講者数：678人)	教職員	221	④	教育委員会事務局 研修企画・支援課 研修指導課
「確かな学力」を育む総合支援事業	学力の定着と向上を図るため、全国学力・学習状況調査を活用し、調査結果をもとに課題解決に向けた効果的な教材の作成や、各学校の授業改善の取組を支援するための学力向上推進会議等を行うとともに、実践推進校(98校)への学力向上アドバイザー(1人)の派遣等により、授業改善にかかる指導体制の充実を図った。	教職員	221	④ ⑤	教育委員会事務局 小中学校教育課
みえの学力向上県民運動の推進	「第1回みえの学力向上県民運動推進会議(10月15日)」を開催し、子どもたちの学力向上に向けた学校、家庭、地域の取組方策について、さまざまな視点から幅広く議論し県民運動の基本方針を策定した。さらに、「みえの学力向上県民運動キックオフイベント(11月2日)」の開催やチラシの配付、ホームページの活用等による県民運動の周知・啓発に注力した取組を推進した。 また、推進会議の下部組織として、庁内に関係次長、関係各課長で構成する「みえの学力向上推進プロジェクト会議」を設置し、関係各課の連携を図った。	子ども、大人	221	④ ⑤	教育委員会事務局 小中学校教育課
道徳教育総合支援事業	特色のある道徳教育を研究する市町等教育委員会と連携し、研究推進校の道徳教育を支援するとともに、各推進校の取組を地域に啓発できるように体制づくりを整備した。また、学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、道徳の時間等に活用できる道徳用教材として、小学校高学年用、中学校用「三重県心のノート」を作成・配付した。	小中学生、教職員	221	④ ⑤	教育委員会事務局 小中学校教育課
三重県高等学校等修学奨学金制度	勉学意欲がありながら、経済的理由により修学が困難な生徒に対して、教育の機会均等が図られることを目的として、無利子で奨学金の貸付を行った。 (貸付人数：1,315人)	高校生、高等専門学校生	221	⑤	教育委員会事務局 予算経理課
三重県高校生英語キャンプ	鈴鹿青少年センターにおいて、英語だけで生活する体験、外国語指導助手(A.L.T)との英語による様々な言語活動(ゲーム、デスクッション、ティベート等)を通じて、高校生向上の交流を深めた。 また、高校生の英語学習への意識を高めるとともに、英語コミュニケーション能力の向上を図る活動を行った。 県内高等学校の9校の高校生36人、A.L.T13人、英語教員10人が参加した。 (実施日：8月23日～24日(1泊2日))	高校生	221	⑤	教育委員会事務局 高校教育課
三重県高等学校科学オリンピック大会	9校の高等学校より9チームの高校生が参加して、授業での学習をベースにした問題や、生活に関連した課題に取り組んだ。数学・理科や科学技術に対する興味や関心が喚起できたとともに、科学的な思考力・判断力・表現力等が育成され、科学的、数学的能力の向上につながった。 (実施日：11月10日) 生徒が数学・理科に関する課題に取り組みながら、科学の面白さや考える楽しさを感じる場となり、国際科学オリンピック大会やその国内予選大会などへの参加の契機となった。三重県高等学校科学オリンピック大会で優勝した伊勢高校は「科学の甲子園」全国大会へ出場した。 (実施日：平成25年3月23日～3月25日)	高校1,2年生	221	⑤	教育委員会事務局 高校教育課

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
地域と協働する学校運営支援事業	・コミュニティ・スクール等の先進事例をもとにした実践発表会を開催した。 （開催回数：1回、参加者数：140人） ・県内を1地域に分け、市町教育委員会を対象とした「開かれた学校づくり推進協議会」を開催した。（1回） ・コミュニティ・スクール等の実践経験者を「開かれた学校づくりサポーター」として、学校や市町教育委員会に派遣した。（計36回） ・コミュニティ・スクール導入校の増加（平成24年度、51校） ・コミュニティ・スクール導入を目指した研究校を指定（平成24年度、7校） ・学校支援地域本部の導入校の増加（平成24年度、175校）	小中学生、高校生、保護者、地域住民、教職員	222	第5	教育委員会事務局 小中学校教育課
地域による学方向上支援事業	大学生や教員経験者等地域住民の知識・技能を活用して、子どもの学方向上を図る市町の取組を支援し、地域住民等による学校を支援する体制づくりを推進してきた。（7市町での実施） また、学校と地域住民等をつなぐコーディネーター等への研修、事業の成果の共有と普及を図るための成果報告会等を実施した。	園児、小中学生、高校生、保護者、地域住民、教職員	222	第5	教育委員会事務局 小中学校教育課
「ふるさと三重」郷土教育の推進	教材「三重の文化」活用授業実践推進会議の開催等により、教材「三重の文化」の活用を推進した。 三重県の自然や歴史・文化などを盛り込んだ「ふるさと三重かるた」の句づくりを県内の小中学校に公募によって行い、11句を選定した。また、「三重の文化財」をめぐり、大型ハズル教材による学習メニューを開発し、県専門職員等が学校等に出張して実践授業を実施した。さらに、埋蔵文化財センター等において子どもたちが本物の文化財に触れたりすることのできる体験会等を実施した。	小中学生、教員及び市町教育委員会指導主事等	222	第5	教育委員会事務局 小中学校教育課
子どもたちの元気づくり推進事業	モデル市町に、子どもたちの体育活動を支援する「体育活動支援員」を配置し、体育課の授業の工夫改善と、運動機会の充実を図ることで、子どもたちが運動を好きになり体力を向上できるような取組を行った。 （モデル市町：5市町、体育活動支援員：10人配置）	小学校・中学校の教員および児童生徒	241	第4	教育委員会事務局 保健体育課
子どもの体力向上推進研究協議会	子どもたちが自らの体力について関心を持ち、進んで体力向上に取り組むよう、学校の体力向上に関する実践事例の交流や、新体力テストの調査結果を「授業の工夫改善」や「体力の成長記録」として有効活用し、子供たちの体力向上に関する取組を推進した。 （開催数：6回、参加者数：338人）	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員	241	第4	教育委員会事務局 保健体育課
学校体育担当者研究協議会	生徒が自発的・自主的に運動に親しむことにより、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培うことができるよう、一人ひとりの個性や可能性を大切に授業実践や、これからの学習指導と評価の在り方について理解を深めるとともに、保健体育担当者の資質の向上を図った。 （開催数：5回、参加者数：501人）	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員	241	第4	教育委員会事務局 保健体育課
地域スポーツ人材の活用実践支援事業	中学校における運動部活動の指導者不足等の課題解決を支援するため、地域のスポーツ指導者を外部指導者として活用することにより、学校と地域の連携を深め、より円滑な学校運営を図った。 （23市町の中学校に96人の外部指導者を派遣）	中学校	241	第4	教育委員会事務局 保健体育課
運動部活動指導者派遣事業	高校生の体力の向上のため運動部活動の充実を図るとともに、多様化する運動部活動へのニーズに対応しその趣旨の実現を支援するため、運動部活動の指導に外部指導者の活用を図った。 （県立高等学校50校に対し70人を派遣）	高等学校	241	第4	教育委員会事務局 保健体育課
運動部活動指導者研修会	中学校及び高等学校等の運動部活動を振興するため、指導者を対象に指導力及び資質の向上を目的に研修会を開催し、運動部活動の充実を図った。 （開催数3回：「運動部活動の適切な指導」・参加者数160人、「ソフトテニス」・参加者数59人、「ソフトボール」参加者数15人）	中学校・高等学校・特別支援学校の教員、地域のスポーツ指導者	241	第4	教育委員会事務局 保健体育課
武道等指導推進事業	中学校における武道の必修化に伴う課題解決を支援するため、武道の専門性を有する指導者を外部指導者として活用することにより、保健体育科における武道の授業の充実を図った。 （18市町の中学校に55人の外部指導者を派遣）	中学校	241	第4	教育委員会事務局 保健体育課

## ②青少年の健全育成の推進

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
非行防止・薬物乱用防止教室	少年の規範意識を向上させるため、県内の小学生から高校生の児童・生徒を対象に非行防止・薬物乱用防止教室を実施した。 （平成24年中、参加校数：延べ476校、参加者数：延べ61,250人）	小学生、高校生及び保護者、教員	131	第5	警察本部少年課

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
三重若櫻サポートネットワークの運用	深刻化する少年問題に対し、効果的な活動が推進されるよう、教育、医療、福祉、更生に携わる機関・団体等による「三重若櫻少年サポートネットワーク」会議を開催し少年の健全育成に関する情報交換を実施した。 (開催日：7月27日、参加者数：関係機関・団体等30人)	大人	131	④	警察本部少年課
「三重県版コネクションズ」による非行少年の立ち直り支援等	非行等の問題を抱え社会から孤立した少年に対し、少年警察協助力員、少年指導委員、被害少年サポーター、大学生ボランティアを委嘱して、関係機関・団体等と連携し、農業体験や社会参加活動等の立ち直り支援の取組を推進した。 (平成23年3月から平成25年3月末までの間、「三重県版コネクションズ」支援対象少年：87人「支援回数：1,004回」)	非行少年 被害少年	131	⑤	警察本部少年課
インターネット上の違法・有害情報から少年を守る対策	携帯電話から有害情報へのアクセスを防止するため、平成24年7月24日、携帯電話大手3社に対し、少年が使用する携帯電話を販売する際には、保護者等に対し、少年の被害情報、フィルタリングの有益性についての情報提供をするよう要請した。	携帯電話事業者 保護者等	131	⑤	警察本部少年課
薬物乱用防止ポスター	薬物乱用を許さない社会づくりを推進するため、中学生、高校生から薬物乱用防止の大切さを同世代に訴えるポスターを募集し、入賞作品は県内で展示するとともに、「三重県ホームページ」に掲載した。 (応募点数：2,123点〈中学生2,115点、高校生8点〉)	中学生、高校生	134	② ⑤	健康福祉部 薬務感染症対策課
学校薬剤師による薬物乱用防止教室「くすりの正しい使い方教室」	覚醒剤などの違法薬物の乱用だけでなく、医薬品を医療目的から逸脱した用量や用法などの医療目的以外で使用することも薬物乱用であるため、「一般用医薬品などのくすりの服用方法や副作用などくすりの正しい使い方について、学校薬剤師が薬物乱用防止教育の一環として薬物乱用防止教室を実施した。 (実施校数：77校)	小学生(高学年)・高校生	134	⑤	健康福祉部 薬務感染症対策課
薬物乱用防止教育認定講師等による薬物乱用防止教室「ダメ、ゼッタイ教室」	ライオンズクラブ国際協会334-B地区と公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターが共同で認定した薬物乱用防止教育認定講師等が実施した。 啓発用ビデオやCD-ROMを活用した薬物乱用防止教育と地域のおじさんやおばさんとして、人生の豊富な経験を生かし「語り部」として、生き方「ライフスキル」を青少年に伝えた。 (実施校数：129校)	小学生、高校生	134	⑤	健康福祉部 薬務感染症対策課
ネット啓発リーダーフォローアップ講座	8月・11月・2月に昨年度養成したリーダー7人を含めた16人及び三重大学の学生等に対するフォローアップ研修会を実施した。	保護者、大学生	221	③	教育委員会事務局 生徒指導課
ネット啓発講座	ネット啓発リーダーが2人1組になり、小中学生の保護者を中心に、「ケータイ・ネットに潜む危険性」「ペアレンタルコントロールの大切さ」「フィルタリングの重要性」等について、保護者に対して保護者の立場から啓発するための講座を学校や地域の要請を受けて実施した。 ※児童生徒が出席の場合は、学校と連携し講座の内容を調整し、保護者としての思いを伝えるなどする。 (実施校数：32校、児童生徒・保護者：2,214人)	保護者・教職員・児童生徒	221	③	教育委員会事務局 生徒指導課
子どものネット被害防止	子どもが、インターネットや携帯電話を介して事件や事故に巻き込まれている状況があるため、地域住民や保護者等に対し、子どものネット使用時の実態を理解し、被害の未然防止に向けた啓発を進めるため、「みえ県民出前トーク」から申し込む方法で職員が出前講座を実施した。 (講座回数：17回、参加人数：751人)	大人	231	④	健康福祉部 子ども・家庭局 子どもの育ち推進課
青少年健全育成協力店運動	「三重県青少年健全育成条例」に基づき、関係機関と連携して子どもを有害環境から保護する取組を進めるとともに、立入調査を実施した。 (子どもの利用の多い店舗のうち青少年健全育成協力店の割合：92.7%)	大人	231	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局 子どもの育ち推進課

### ③文化・生涯学習の推進

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
水生生物を指標とした水質調査	小中学生や地域住民を対象として、身近な自然とふれあい、環境問題への関心を高めるとともに、広く水環境保全の普及啓発を図ることを目的に、河川に生息する水生生物を指標として水質を判定する水生生物調査を実施する。また、この結果をもとにして「水生生物を指標としたみえの河川水質マップ」を作成し、参加団体、市町、各小中学校に配布した。 (調査期間：6月～9月、調査参加者：小中学生を中心に38団体2,266人、対象：31河川49地点)	子ども、大人	151	⑤	環境生活部 大気・水環境課

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
高校生フェスティバル	県内の高校生が一堂に集い、高校生フェスティバルを開催し、日頃の学習や文化活動等の成果を総合的に情報発信した。生徒自らが企画提案した取組や成果を発信し、互いに交流することにより、表現力や思考力等言語活動の向上につながった。 (実施日：10月26日～28日、場所：三重県総合文化センター、参加生徒数：2,529人、来場者数：延べ6,997人)	子ども、大人	221	① ② ③	教育委員会事務局 高校教育課
三重ジュニア管弦楽団育成事業	毎月3回の練習及び地域演奏活動を通年実施し、練習活動を通じて青少年健全育成を図るほか、地域貢献活動として、様々なイベントに出演した。 (出演回数：3回)	小学生～高校生	261	⑤	環境生活部 文化振興課
みえ文化芸術祭みえ音楽コンクール	三重の音楽文化をにぎやかな若い人材を育成することを目的に、ピアノ・声楽・フルート・弦楽の4部門で音楽コンクールを実施した。また、コンクール入賞者による記念演奏会を実施した。 (コンクール参加者数：224人)	幼児～大人	261	⑤	環境生活部 文化振興課
映画会	三重県視聴覚ライブラリーの映像教材を活用したアニメ映画会を実施した。 (親子向け映画会実施回数：1回)	子ども、大人(親子)	261	⑤	環境生活部 文化振興課
M祭！、お正月あそび等の子ども向けイベント	総合文化センターのPR事業の一環として、子ども向けの体験型お祭りイベント等を実施し、県内公立施設やボランティア等多様な主体との連携により運営した。 (参加者数：M祭！8月5日、延べ約9,681人 お正月イベント 平成25年1月5日、延べ約3,719人 社会見学 通年 35件・延べ1,854人 こいのぼり掲揚 4月18日～5月6日)	子ども、大人	261	③ ⑤	環境生活部 文化振興課
高校演劇連盟との共催事業	高校演劇部員を対象とした舞台づくりの基礎的な力をつける講習会のほか、高校生から大学生を対象とした22歳以下限定の戯曲&演出講座を開催した。 (講習会：1回、講座：9回)	高校生～大学生	261	③ ⑤	環境生活部 文化振興課
小学校への出前授業	斎宮や平安時代の歴史について明和町内の6小学校と連携し、学校の立地や要望にあわせた歴史の授業を実施した。 (実施回数：16回)	小学6年生	261	⑤	環境生活部 斎宮歴史博物館
展覧会における親子対象ワークショップ	特別展・企画展において、親子で体験できるイベント「蝙蝠(かわぼり)扇をつくろう」などを実施した。 (実施件数：6回 参加者数：延べ95人) また、展覧会開催期間中には、子ども向けの関連イベントを行い、歴史・文化への興味関心を育くむ体験活動の機会を提供した。	子ども・大人(親子)	261	③ ⑤	環境生活部 斎宮歴史博物館
「うれしの天白縄文まつり」への運営協力	松阪市とNPO法人が協働実施した「うれしの天白縄文まつり」の運営に協力し、土偶作りの支援をした。 (実施日：10月28日、参加者数：45人)	子ども、大人	261	⑤	教育委員会事務局 埋蔵文化財センター
「M祭！2012」への参加(「まいぶんミニのぼりをつくろう！」体験)	県総合文化センターで実施された「M祭！2012」に参加し、埋蔵文化財などを題材としたシールを貼り付けたミニのぼりを作ってもらった体験イベントを実施した。 (M祭！実施日：8月5日、参加者数：782人)	子ども、大人	261	③ ⑤	教育委員会事務局 埋蔵文化財センター
埋蔵文化財センター夏休み体験イベント「古代を体験する夏休みの5日間 きみも古代人になれる?!」の実施	埋蔵文化財センター嬉野分室で実施。本物の土器に触る、火おこし体験、文化財カードとすごろく体験、石垣丁・貫頭衣・鹿角ペンダント・勾玉・土器などの製作などをおし、郷土の文化財を学ぶ楽しさや愛護心を育むための支援を行った。 (実施日：8月22日～26日、参加者数：773人)	子ども、大人	261	③ ⑤	教育委員会事務局 埋蔵文化財センター
埋蔵文化財センター冬の体験イベント「まいぶん祭冬の巻」の実施	県総合文化センター生活工房で実施。本物の土器・石器・復元した銅鏡に触る、文化財カード・すごろく・遺跡GIS体験、紙芝居の視聴などをおし、郷土の文化財を学ぶ楽しさや愛護心を育むための支援を行った。 (実施日：平成25年1月19日～20日 参加者数：230人)	子ども、大人	261	③ ⑤	教育委員会事務局 埋蔵文化財センター
「ネットワーク交流会」への参加(考古学者からの挑戦、一番古い土器はどれだ?)	県総合文化センターで実施された「ネットワーク交流会」に参加し、県内の遺跡から出土した土器について、時代順に並べる体験を実施した。 (実施日：11月18日、参加者数：119人)	子ども	261	③ ⑤	教育委員会事務局 埋蔵文化財センター
学校を対象とした出前講座	地域の遺跡や歴史についての学習を補助し、周辺遺跡の発掘調査の出土品を実際に見て、触れることで郷土の文化財を学ぶ機会や愛護心を育むための支援を行った。 (実施回数：16回)	小学生～高校生	261	⑤	教育委員会事務局 埋蔵文化財センター

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
学校を対象とした遺跡発掘調査の見学	学校周辺で遺跡の発掘調査が実施された場合などの機会に、調査現場への見学を通じて、遺跡発掘の様子や出土品の発見の様子などを通じた実感的な感動を与え、郷土の文化財を学ぶ楽しさや愛護心を育むための支援を行った。 (実施回数：2回)	小学生、高校生	261	⑤	教育委員会事務局 埋蔵文化財センター
生涯学習機会提供事業（みえアカデミックセミナー等各種講座）	高等教育機関やさまざまな専門機関と連携した各種講座を実施した。 (子どもをテーマにした講座「健康維持とこころの維持／これからの保育、社会にとって大切なこと」など5回実施)	子ども、大人	262	④	環境生活部 文化振興課
文化体験ハートナレーション活動推進事業	感性豊かな子どもたちに感動・感銘を与える体験型事業を実施した。美術館、博物館等の社会教育施設や文化団体等と連携し、学校へ文化体験プログラムを提供した。また、学校と施設・団体をつなぐ文化ボランティアの育成や、学校関係者等への研修を実施した。 (実施回数：59校・延べ70回)	小学生、大人（教員・ボランティア他）	262	⑤	環境生活部 文化振興課
三重県立図書館児童コーナー	児童書や児童研究用の図書を揃え、閲覧、貸出、参考調査サービスの提供を行った。また子どもや大人が求めている図書を選定し、揃えるとともに、各サービスの向上を図った。	子ども、大人	262	①	環境生活部 図書館
おはなし会	図書館職員のほか、ボランティアグループが主体となって子どもに絵本の読み聞かせやストーリーテリングなどを行う「おはなし会」を実施した。 (実施日：毎月第1～4土曜日、隔月第4水曜日、延べ参加人数：1,688人)	読み聞かせ等のボランティアグループ、小学生以下の子ども	262	④ ⑤	環境生活部 図書館
学校開放講座	地域での図書館サービスの向上と利用促進をはかるため、県立高等学校図書館と県立図書館が連携し、講座「カメラの仕組みを学んで、撮影に活かそう！」を、地域住民等を対象に南伊勢高等学校で開催した。また、関連図書の貸出も行った。 (講座回数：1回)	子ども、大人	262	⑤	環境生活部 図書館
子ども自然科学教室	三重県北部の代表的な植生と称される「三重大学平倉演習林内において、三重大学や博物館の学芸員とともに昆虫や植物の観察を行った。 (実施日：7月31日、参加者：25人)	小学生3年生、高校生	262	③	環境生活部 新博物館整備推進PT
こども会議	小学生・中学生までを主な対象に、大人も交えて、新県立博物館の建築中の建物の見学を通じ博物館の機能や役割に関する理解を深めたうえで、新県立博物館でやってみたいこと、博物館の運営や活動への提案や意見などを自由に意見交換した。 (開催日：11月11日、開催地：県総合文化センター、参加者：90人（うち子ども60人）)	小学生、中学生、大人	262	① ②	環境生活部 新博物館整備推進PT
新博ティーンズプロジェクト	小学校・高校生を対象に、博物館の活動に参加してもらおう事業で、毎年事業内容を設定している。平成21年度は、おせち料理をテーマに、子どもが自分の家庭のおせち料理を調べ、その結果をもとに「おせち料理交流会」を開催した。 (調査カード集計：2,794枚、「おせち料理交流会」3月31日 交流会参加者：56人)	小学生、高校生	262	③	環境生活部 新博物館整備推進PT
夏休み子どもひろばの開催	子どもとその家族が美術館や美術鑑賞を楽しめるように夏休みに子ども向けワークショップ「かわいいをつくろう！！」を開催した。 (開催日：8月11日・12日、参加者数：41人)	小学生	262	⑤	環境生活部 美術館
夏休み子ども斎宮跡発掘調査体験教室の開催	国史跡斎宮跡を発掘し、調査や整理の方法、平安貴族の遊びや生活などを体験しながら学ぶとともに、郷土の歴史や文化財に対する興味と理解を深めた。 (開催日：8月11日・2日、参加者数：17人)	小学1年生～中学生	262	⑤	環境生活部 斎宮歴史博物館
史跡公園への子どもたちによる看板製作と設置	未来の斎宮をイメージした大型看板3点を、平成23年度に斎宮小学校6年生3クラスに作成依頼して、平成24年度に史跡公園予定地に設置した。また、同じテーマで、平成21年度には斎宮小学校3点、上御糸小学校2点の看板を作成した。これも平成25年度には公園予定地に設置公開する予定である。	小学生	262	⑤	環境生活部 斎宮歴史博物館
史跡公園への柱表示の子どもたちの寄せ書き「未来へのメッセージ」	明和町内の6小学校と連携して、史跡公園に設置する塀の柱跡表示用の材木の底部に、6年生による「未来へのメッセージ」を寄せ書きしてもらった。寄せ書き本体は地中に埋まるので、公園予定地には柱の側面に看板で表示して、メッセージが読めるようにした。	小学生	262	⑤	環境生活部 斎宮歴史博物館
鈴鹿青少年センター主催事業「単式学級学校交流」	単式学級の学校同士がキャンプファイヤーを通して、学校自慢やレクリエーション、ファイヤーダンスなど交流を行った。 ・7月4日：鈴鹿市立合川小学校と庄内小学校 ・7月26日：松阪市立中原小学校と津市立村主小学校	単式学級校 児童・教職員	262	③ ⑤	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課

取組名	取組概要	対象	施策番号	条基本	担当課
鈴鹿青少年センター主催事業「チャレンジ体操教室」	ストレッチ運動をはじめ、ボールやなわとびを用いてバランス感覚を養うとともに、子どもたちが身体を動かすことの喜びとやり遂げる達成感を体験する講座を行った。 (実施日：11月11日、11日、18日、25日、12月2日、9日、参加者数：23人)	小学1年生～2年生	262	③ ⑤	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
鈴鹿青少年センター主催事業「キッズえいご」	歌やゲームを通じて、英語にふれていくことでその楽しさを感じ、興味・関心を育む機会を提供した。 (実施日：3月2日、9日、16日)	年中・小学2年生	262	③ ⑤	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「サイエンステクノロジー講座」	身の回りの不思議ななぞについて興味を持って、調べ、実験する「わくわく体験」を行った。 (実施日：5月19日、6月30日、11月17日 参加者数：延べ92人)	小学3年生～6年生	262	③ ⑤	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
農業研究所「職場体験学習」	児童および生徒を対象に、農業機械の実演、栽培管理や収穫等の体験学習を行った。 (実施日：10月19日、11月6日 参加者数：100人)	小学生、高校生	311	③ ⑤	農林水産部 農業戦略課 農業研究所
「農大祭&西山農業祭り」	農業や農業研究の取組について理解を深めてもらうため、科学体験コーナー、研究成果展示、農業に関するクイズラリーなどを実施した。 (来場者数：2,100人) 埋蔵文化財センター出展コーナーでは、土器の模様付け、農具にさわる体験、資料の展示をを実施した。 (参加者数：114人)	子ども、大人	311	③ ⑤	農林水産部 農業戦略課 農業研究所 教育委員会事務局 埋蔵文化財センター

#### ④自然とのふれあい・環境学習の推進

取組名	取組概要	対象	施策番号	条基本	担当課
三重県環境学習情報センター	社会見学の実入れ、各種環境講座の実施、イベント開催等を通じて、環境保全に関する気づきや実践への機会を提供した。 (環境教育参加者数：33,797人)	子ども、大人	151	② ③	環境生活部 地球温暖化対策課
キッズ1S O14000プログラム	小学校、企業、行政が連携してキッズ1S O14000プログラムに取り組むことにより、家庭を巻き込んだ環境保全活動を推進した。 (参加児童数：860人)	小学生、大人	151	② ③ ④	環境生活部 地球温暖化対策課
地球温暖化防止啓発ポスターコンクール	県民の地球温暖化防止への関心、意識を高めることを目的として、小・中学生を対象にポスターコンクールを実施した。 (応募者数：3,079人)	小学生、中学生	151	② ③	環境生活部 地球温暖化対策課
ごみゼロ社会実現プランの普及啓発	主に次世代を担う子どもたちを対象として、「もったいない」という、ものを大切にする考え方を中心に、食品廃棄物の削減をめざして普及啓発冊子をイベント等で配布したほか、学校における環境学習等で活用した。 また、子どもを対象とするイベント（Mie子どもエコフェア、みえ環境フェア）へのブース出展し、ごみゼロクイズやぬらえを実施した。 (Mie子どもエコフェア 開催日：7月21日、22日、開催場所：鈴鹿山麓リサーチパーク内、参加者：約100人) (みえ環境フェア 開催日：12月21日、開催場所：メッセウイングみえ、参加者：約300人)	子ども、大人	152	⑤	環境生活部 廃棄物対策局 廃棄物・リサイクル課
野生生物保護啓発ポスターコンクール	ポスター制作過程を通して野生生物についての保護思想を高めるとともに、県民への普及啓発を図ることを目的として、小学生、高校生を対象にポスターコンクールを実施した。 (応募数：小中学校・高校 167校 2,022人)	小学生、高校生	153	② ③	農林水産部 みどり共生推進課
三重県レッドデータブック2005改訂関連「自然観察会」	子どもたちの自然への関心を高め、自然環境を支える将来の担い手となるきっかけづくりを行うため、三重県レッドデータブックの更新に際し、子どもたちが参加する野生動植物種の観察会を実施した。 ・初夏の野鳥観察会 (実施日：6月10日、実施場所：三重県民の森(菰野町) 参加者：24人) ・きのご観察会 (実施日：7月16日、実施場所：三重県上野森林公園(伊賀市) 参加者：50人) ・砂浜の生きもの観察会 (実施日：7月28日、実施場所：三重県水産研究所鈴鹿水産研究室(鈴鹿市) 参加者：31人) ・昆虫や植物の標本づくり (実施日：8月11日、実施場所：津市河芸公民館(津市) 参加者：17人)	小学生、大人又は親子	153	③ ④	農林水産部 みどり共生推進課

取組名	取組概要	対象	施策番号	条基本	担当課
花育の取組「フラワーラボコンクール」	中川新聞社と7原1市が主催となり、学校環境の美化と豊かな情操教育、花による地域の快適な環境作りなどに役立てることを目的に、小中学校を対象とした学校花壇コンクールを開催した。 また、学校花壇設計図、花と私の作文、花壇の写生、校外花壇各コンクール、花壇指導者講習会や、花育推進のため、新たにフラワーラボコンクールに参加する小中学校に普及指導員が栽培指導と資材の支援を行った。 (学校花壇コンクール参加校数：48校のうち小学校10校、中学校7校、特別支援学校1校)	小・中学生	221 312	③	農林水産部 農畜産課 教育委員会事務局 小中学校教育課
子ども農山漁村ふるさと体験推進事業	小学校～大学生の子ども・学生のグループが農山漁村でのふるさと体験活動を行うことを通じて、学ぶ意欲や自立心を育み力強い子どもの成長を支えようとするもので、そのために必要な農山漁村における受入地域の体制整備や体験指導者育成を図った。 (受入地域8地区、体験指導者21人養成)	農山漁村地域の大人	254	④	地域連携部 地域支援課
田んぼの生きものキャラクターコンクール	作品の制作過程を通して、いろんな人たちが農村を身近に感じてもらうことを目的として、小学6年生以下の子どもたちを対象に田んぼの生きものキャラクターコンクールを実施した。 (応募点数 98点) また、表彰式・応募作品展示の開催時に、農村環境を大人と子どもが一緒に考えていくことを目的として、メダカのコクロー劇団によるアニメ紙芝居を実施した。	小学6年生以下の児童・園児	254	② ③ ⑤	農林水産部 農業基盤整備課
松名瀬干潟の観察会	三重中学校の生徒を対象に、漁業者、三重大学研究者、県職員、環境保護活動家が講師を務め、生物多様性の維持、水質浄化機能等、干潟が果たす役割の重要性について学習する観察会を実施した。 (実施日：6月5日、参加者数：139人)	中学生	254	③ ④	農林水産部 水産資源課
「Mie子どもエコフェア」への参加 「1チャレンジ！昔の火おこし体験」	「Mie子どもエコフェア」に参加し、環境学習の一環として、昔の火おこし道具を用いて着火体験イベントを実施した。 (実施日：7月21日、開催場所：県環境学習情報センター、参加者数：120人)	子ども、大人	261	③ ⑤	教育委員会事務局 埋蔵文化財センター
鈴鹿青少年センター主催事業「わくわくファミリーキャンプ」	親子で宿泊し、キャンプファイヤー、野外活動及び自然観察などアウトドアの基礎を体験することで、親子のふれあいを通じて、家族の絆を深める場を提供した。 (実施日：10月13～14日、参加者数：12家族30人)	小中学生とその家族	262	③ ⑤	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
鈴鹿青少年センター主催事業「ウインターアドベンチャー」	鈴鹿青少年の森で冬の自然観察をしたり、自然の材料を利用した創作活動を行うなど、集団宿泊体験により協調性や思いやりの心を育てる活動を行った。 (実施日：2月2～3日、参加者数：29人)	小学5年生～中学2年生	262	③ ⑤	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
鈴鹿青少年センター主催事業「レッツチャレンジ2012」	異年齢の子どもたちが共同生活をしながら、登山や野外炊飯などの自然体験活動等を行うことにより、自然に対する理解や愛情を育んだ。 (実施日：8月21～25日、参加者数：25人)	小学5年生～中学2年生	262	③ ⑤	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「幻想ロマンホテル祭」	夏の夜の森を川沿いに散策しながら、親子でのホテル鑑賞を行った。 (実施日：6月21日、参加者数：156人)	小学生、大人までの親子	262	③ ⑤	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「真夏のロングキャンプ」	大自然の中で、那智黒石加工・切り絵・リポートレッキング・あまごつかみ・ヨット体験・スイカ割り・川遊びなどの体験活動を実施した。 (実施日：7月21日、21日、参加者数：延べ68人)	小学1年生～6年生	262	③ ⑤	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「川遊びの達人講座」	川の生き物観察・あまごつかみ・スイカボール割り等、自然の中で川遊びの達人になる講座を開催した。 (実施日：8月25日、参加者数：31人)	小学生、大人までの親子	262	③ ⑤	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「アウトドア親子お料理教室」	大自然の中で毎回違ったメニューでアウトドアクッキングを体験する教室を開催した。 (実施日：5月20日、7月15日、10月7日、12月2日、参加者数：延べ175人)	小学生、大人まで(小1、2は保護者同伴であること)	262	③ ⑤	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
鈴鹿青少年センター主催事業「おもしろ自然科学教室」	摩訶不思議な実験、工作、観察等を通して、自分の目で見て、耳で聞いて、体で感じて学ぶ機会を提供した。 (実施日：1月12、26日、2月9日、23日、参加者数：延べ116人)	小学5年生～6年生	262	③ ⑤	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
畜産ふれあいイベント	畜産研究所における畜産研究や畜産業の取組について県民が知る機会として、バター作り体験、動物のお医者さん体験、タマゴの中のヒヨコ観察、その他家畜とのふれあいなど、様々な体験イベントを行った。 (実施日：5月13日、場所：畜産研究所、来場者数：867人)	子ども、大人	311	③ ⑤	農林水産部 農業戦略課 畜産研究所
森林環境教育	森林や木への理解を深めるため、小学校における森林の学習講座開催支援や、子どもも参加できる森林の活動体験講座を開催するとともに、森林環境教育の指導者養成等に取り組んだ。 (小学校での森林の学習講座開催支援：11回、森林の活動体験講座：7回、指導者養成数：23人)	小学生(高学年が主)、大人	313	③ ⑤	農林水産部 みどり共生推進課
平成24年「県民の日」記念事業への参加	「県民の日」記念事業に参加し、新エネルギーのハネル展示や模型を使用しての体験を通して、新エネルギーへの理解の増進を図った。 (開催日：4月14日、場所：三重県総合文化センター)	子ども、大人	325	⑤	雇用経済部 エネルギー政策課
全日本中学生水の作文コンクール	8月1日の「水の日」及び8月1日～7日の「水の週間」に合わせ、中学生が水について理解を深めるための取組の一環として「全日本中学生水の作文コンクール」を実施した。(テーマ「水について考える」、国土交通省・都道府県共催) (三重県応募総数：530作品)	中学生	354	② ⑤	地域連携部 水資源・地域プロジェクト課

### ⑤防災教育の推進

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
「小学生 消防学校 1日体験入校」	県内の小学生を対象に、消防学校 1日体験入校を通じて、消防・防災に関する興味・関心を高め、知識や技術の向上を図る機会とした。同時に緊急時を念頭においた集団訓練の中で、規律や節度、協調性を大切にする気持ちを育む機会となった。 (実施日：8月2日・8月3日、参加者数：8/2 95人、8/3 107人(両日共引率者を含む))	小学4年生～6年生	111	③ ⑤	防災対策部 消防・保安課 ／三重県消防学校
防火絵画	火災予防に対する関心を喚起・高揚させることを目的に、県内の小中学生を対象に募集した。最優秀賞4名、優秀賞4名、優良賞4名、佳作12名を選定し、表彰するとともに、入選作品を春の火災予防運動期間中、アスト津に展示した。また、入選作品を使用し、防火カレンダーを作成した。 (応募数：378件)	小学生・中学生	111	② ⑤	防災対策部 消防・保安課
防火習字	火災予防に対する関心の喚起・高揚を目的に、県内の小学1,5,6年生を対象に防火習字を募集した。最優秀賞3名、優秀賞3名、優良賞3名、佳作15名を選定し、表彰するとともに、入選作品を秋の火災予防運動期2間中、アスト津に展示した。 (応募数：3,115件)	小学4年生～6年生	111	⑤	防災対策部 消防・保安課
啓発コンテンツ (啓発映像、防災すごろく、タブレット)を活用した防災意識の向上	今後発生が危惧されている大災害に備えるため、現在の小、中、高校生を将来の社会を支える地域の防災人材として育成していく必要がある。そこで、災害時には自らの身を守ることはもちろん、地域を守る担い手となることを目指し、啓発コンテンツを活用して防災意識の向上を図った。 (実施回数：19回)	小、中、高校生	111	⑤	防災対策部 防災企画・地域支援課
県防災、県警、ドクターヘリコプター見学会	県内の親子を対象に、実機訓練等の見学を通じ、県防災、県警、ドクターヘリコプターをより身近な存在として認識できる機会を提供するとともに、県民の安全・安心を担う業務の一環としての活動を広く周知した。 (実施日：8月25日、参加者数：約160人)	子ども(小学生以下)と保護者	111	⑤	防災対策部 災害対策課
学校における防災学習の支援	地震や津波に備え学校で実施する防災タウンウォッチングや防災マップづくり等の体験型防災学習、保護者、地域住民等との合同の避難訓練、防災講話等を支援した。	小学生・中学生・高校生及び特別支援学校の児童生徒	224	⑤	教育委員会事務局 教育総務課
東日本大震災の被災地の学校との交流	三重県の中学生の防災意識を高めるとともに、東日本大震災で被災した宮城県の中学生の心のケアを図るため、8月に宮城県の中学生を三重県に招待し、防災タウンウォッチング、防災に関する意見交換、発表等を行う「子ども防災サミットinみえ」を開催した。 (開催日：8月20日～23日、開催地：鳥羽市及び志摩市、参加者数：115人)	中学生	224	⑤	教育委員会事務局 教育総務課



取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
防災ノート等を活用した防災教育	児童生徒が、地震や津波から自ら身を守ることができるようになり、家庭での防災対策を充実するため、平成23年度に作成した防災ノート等を活用した防災教育を実施した。私立学校にも配布し、活用を促した。	小学生・中学生・高校生・高校生及び特別支援学校の児童生徒	221 224	⑤	教育委員会事務局 教育総務課 環境生活部 私学課

#### (4) 成長支援のための生活環境の整備

##### ①潤いのある快適なまちづくり

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
土砂災害防止に関する絵画・作文	土砂災害の防止と被害の軽減を図るため、国と各都道府県では、毎年6月を「土砂災害防止月間」として、各種の活動を実施した。その活動の一環として、小中学生を対象とした絵画・作文を募集し、優秀な作品を表彰する取組により啓発に努めた。 (応募数：小中学校13校 30件)	小学生・中学生	112	② ⑤	県土整備部 流域管理課
河川・海岸愛護ポスターの募集及びカレンダーの作成	川と海の役割や大切さについて理解と関心を深めるため、国と各都道府県では、毎年7月を「河川・海岸愛護月間」として、各種の活動を実施している。その活動の一環として、小中学生を対象としたポスターを募集し、優秀な作品には知事賞・議長賞等を授与するとともに、入選作品を素材としたカレンダーを作成して県内の小中学校等に配布する取組を行った。 (応募数：小中学校206校 2,033件)	小学生・中学生	112	② ⑤	県土整備部 流域管理課
国土と交通に関する図画コンクール	人々の生き生きとした暮らしと、これを支える活力ある経済社会、日々の安全、美しい良好な環境等を実現するためのハード・ソフトの基盤形成への理解を深めてもらう活動として、国の取組に呼応し、小学生を対象に図画を募集し優秀な作品を表彰することにより啓発に努めた。 なお、その中から国土交通事務次官賞1点、佳作1点を受賞した。 (応募数：県内9校 51件)	小学生	351他	② ⑤	県土整備部 県土整備総務課
県土整備部キッズホームページの開設準備	子どもたちに、公共土木施設にかかる仕事のあらましやその役割、仕事の進め方などを知ってもらうための「キッズホームページ」の開設準備に取り組んだ。	小学生(高学年)・中学生	351他	② ⑤	県土整備部 県土整備総務課

##### ②ユニバーサルデザインのまちづくり

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
三重県ユニバーサルデザインのまちづくり賞	ユニバーサルデザインの考え方を普及するため、三重県ユニバーサルデザインのまちづくり賞の募集を行い、優秀な作品等を表彰するとともに、ホームページなどで表彰作品等を紹介した。 (応募数：「UDのたまご(アイデア)部門」348件、「ポスター部門」103件、「UDの実践(施設や活動)部門」1団体)	小学生・大人 (UDのたまご部門、ポスター部門は小中学生のみ)	143	② ⑤	健康福祉部 地域福祉課
地域で育むUD学校出前授業	次世代を担う子どもたちがユニバーサルデザインの考え方を理解し、自ら行動していけるよう、学校出前講座を実施し、意識啓発を行った。 (実施校：37校、参加者数：1,975人)	小学生・高校生	143	⑤	健康福祉部 地域福祉課
ハーキングハーミット制度(三重おもいやり駐車場利用証制度)の導入	障がい者や妊産婦など歩行困難者の外出を支援するため、公共施設や商業施設などに「おもいやり駐車場」の設置を進めるとともに、その利用証を交付する「三重おもいやり駐車場利用証制度」を10月1日から開始した。 (利用証交付者数：10,201人、「おもいやり駐車場」登録届出数：1,560施設、3,296区画)	障がい者や妊産婦などで、歩行が困難な方	143	⑤	健康福祉部 地域福祉課

### ③安全な道路交通環境の整備

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
通学路における歩行空間の改善	平成24年度に実施した通学路の緊急合同点検の結果を踏まえ、歩道の整備や路肩のカラー化等、歩行空間の改善に資する対策を進めた。 <主な実施内容> 防護柵の設置、警戒標識、表示等の設置、路側帯のカラー舗装化等	通学路利用者(小・中学生等)	132	5	県土整備部 道路管理課
安全な道路交通環境の整備	子どもたちの交通事故を防止するために、平成24年度においては、信号機の新設30基(新設道路10基・事故防止16基・通学路1基)と高度化改良120基を整備し、歩行者の移動等の安全と円滑化や、幹線道路における交通の安全と円滑化を図った。	幼児、小学生、中学生、高校生、大人	132	5	警察本部交通 規制課
歩道整備	子どもが安全に通学できる道路など、歩行者等の安全を確保する取組として、歩道整備を実施した。また、歩道整備に加えて、既存の道路敷地が活用可能な箇所において、路肩を整備し、歩行空間を確保する「あんしん路肩整備」を実施した。 (歩道整備:29か所、あんしん路肩整備:29か所 平成25年3月末現在)	全ての歩行者	351他	5	県土整備部 道路管理課

### ④犯罪のない安全・安心のまちづくり

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
防犯ボランティア団体等との連携による子ども見守り活動等の推進	子どもの見守り活動を行うなどの防犯ボランティア団体の定着化及び活性化を図るため、平成24年度防犯ボランティア団体活動活性化事業として県内8団体に対して物的な支援を行ったほか、10月15日に三重県警察認定「子ども安全・安心の店」認定証交付式を開催し、新たに25事業所を認定するなど、通学路における子どもを犯罪被害から守るための対策を図った。	防犯ボランティア団体のほか、ボランティア活動に従事する事業所等	131	5	警察本部生活 安全企画課

## (5) 仕事と生活の調和(ワークライフバランス)に向けた環境整備

### ①男女協働参画の推進

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
男女共同参画センター事業	育児休暇を取得した東証1部上場企業の経営者を講師に迎え、企業関係者を対象に、「ワークライフバランス」、 「男性の家事・育児参加」、 「企業の取組」について考える講座を開催した。 ・講師:吉野慶久さん(サイボウズ株式会社 代表取締役社長) (開催日:8月24日、開催場所:三重県男女共同参画センター、参加者数:139人)	大人	212	4: 5	環境生活部 男女共同参画・NPO課

### ②仕事と家庭の両立ができる就労環境等の整備

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
働きやすい職場づくり事業	ポジティブ・アクションやワーク・ライフ・バランス、次世代育成支援対策及びCSR(企業の社会的責任)活動などに積極的に取り組む県内の企業等を認証するとともに、認証を受けた企業等のうち特に優れた実績を有する企業等を表彰し、合わせて優れた取組事例(グッドプラクティス)を広く県内全体に紹介した。	企業等	332	4: 5	雇用経済部 雇用対策課
働き方改革推進事業	労働団体、国、市町等多様な主体と連携して、①企業での長時間労働の見直し、②仕事と家庭が両立できる企業での労働環境の確保、③企業での主体的なワーク・ライフ・バランスの推進などが進展するよう、優良取組事例の収集、推奨モデルの検討、企業への普及・啓発等に取り組んだ。	企業等	332	4: 5	雇用経済部 雇用対策課

### ③若者の雇用支援

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
キャリア教育実践プロジェクト事業	児童生徒が将来自立した社会人として積極的に社会参加できるようにするため、小・中・高等学校の体系的なキャリア教育の推進に取り組んだ。また、社会で活躍する卒業生等による授業を実施するとともに、職業人に密着して学習する場をつくった。児童生徒の職業意識・進路意識の醸成を図り、高等学校における進学指導のネットワークづくり、就業体験（インターンシップ、デュアルシステム、しごと密着体験等）の拡充に取り組んだ。 （授業：小中高計33校 209講座、職業密着学習参加者数：小中高延べ38校 児童生徒延べ130人）	小学生、高校生	221	⑤	教育委員会事務局 高校教育課
高校生就職対策緊急支援事業	関係機関と協働し、事業所と学校が持つ情報を結びつける機会の充実を図った。県内各地域において、学校、事業所、経済団体、行政機関等とネットワークを構築し、高校生の就労支援やキャリア教育における学校と地域との連携方策について検討した。地域人材確保の観点から求人と求職のミスマッチを解消するために、企業等で管理職や人事担当者の経験を持つ外部人材を活用した。 （就職支援相談員配置数：25校、10人）	高校生	221	⑤	教育委員会事務局 高校教育課
進学対策HYPER講座	社会で活躍している方を講師として、経験談等に関する講演会を実施するほか、各教科の学習を行った。自己の在り方生き方を考えるとともに、目標をもち主体的に学び続ける意欲や態度を身につける機会となった。（4回実施）	高校2年生	221	⑤	教育委員会事務局 高校教育課
三重県農林漁業就業・就職フェア	県内の農林漁業への就業・就職希望者と新たな人材を求める農林漁業者とのマッチングの機会を提供することを目的として、農林漁業者と就業・就職希望者との個別相談、農林漁業の職業内容紹介などを行うフェアを開催した。 （開催数：2回、参加人数：279人）	高校生、大学生、若年及び中高年の未就職者等	312	⑤	農林水産部 担い手育成課
合同企業説明会	三重県内に就職を希望する求職者と三重県内企業の人事担当者が個別ブースで面談ができる合同企業説明会を実施した。 （実施回数：7回、参加企業数：延べ531社、求場者数：延べ1,890人）	高校3年生、短大2年生、大学1年生、若年未就職者等	331	⑤	雇用経済部 雇用対策課
地域若者サポートステーション事業	厚生労働省の委託を受けた県内1箇所の地域若者サポートステーションが、高等学校等と連携し、高等学校中退者等の就労支援を行った。 （相談利用者数：延べ6,592人）	高校中退者、若年無業者	331	⑤	雇用経済部 雇用対策課

## (6) 子どもの安全の確保

### ①犯罪等の被害から守る取組の推進

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
防犯教育実践事業の実施	高校生が犯罪に巻き込まれないよう、危険予測・回避能力を高めるため、専門家によるワークショップや講演会を実施した。また生徒が行う防犯活動等への支援を行った。 ・ワークショップ実施校：四日市商業高等学校、松阪商業高等学校、四日市西高等学校 ・講演会実施校：松阪商業高等学校（700人） ・防犯活動：のぼり旗やジャケット等防犯に関わるグッズの配布	高校生、教職員、保護者、地域住民	131	⑤	教育委員会事務局 生徒指導課
「命の大切さを学ぶ教室」の開催	次代を担う中学生、高校生及び大学生に対し、犯罪被害者等の講師が、犯罪被害者等が受けた様々な痛み、家族の絆、命の大切さ、被害者も加害者も出さない社会を希求する思い等について語りかけ、受講した生徒が犯罪被害者等の悲痛な思いや置かれている現状に対する理解を深め、社会全体で犯罪被害者等を支える機運の醸成を図るとともに、自分や他人の命を大切にすることを意識、犯罪を犯してはならないという規範意識の向上を図ることを目的として開催した。 （開催回数：16回、受講者数：6,590人、受講後のアンケート結果：受講者の約97パーセントが「とてもよかった」「よかった」と回答）	中学生、高校生及び大学生	131	①	警察本部広聴広報課

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
「行詩「いのち」の募集	公益社団法人みえ犯罪被害者総合支援センターが主催の行事で、「いのち」をテーマとした「行詩」を作成することにより、命の大切さについて考え、犯罪被害者等の心情を理解し、犯罪被害者等を思いやる心を育み、犯罪のない安全で安心なまちづくりの促進を図っている。平成24年度は、2,292作品の応募があり、優秀作品を選考し表彰するとともに、優秀作品を収録したカレンダーを作成し、配布した。	中学生	131	② ⑤	警察本部広聴広報課
外国人住民との共生社会づくり推進事業	少年の保護など基本的なルールを明記した冊子「日本での生活ルール（ポルトガル語、中国語、スペイン語、フィリピン語、英語、インドネシア語）」を配布した。 （配布数：2,191部 配布先：市町、国際交流協会、NPO法人等外国人関係機関、及び警察実施の研修会・講習会、各種イベント会場等）	大人（技能実習生・定住者・留学生、国際交流関係者等）	131	⑤	警察本部国際捜査課
少年が被害者となる福祉犯等の検挙の推進	少年が被害者となる福祉犯やわいせつ犯等の卑劣な犯罪の検挙を推進し、関係機関と連携するなど被害少年の保護を図った。 （平成24年中、福祉犯の検挙人員：100人、子どもに対する痴漢等の性的犯罪の検挙件数：11件）	被害少年	131	⑤	警察本部少年課、生活安全企画課
児童等に対する誘拐防止教室及び学校への不審者侵入訓練の実施	子どもが犯罪に巻き込まれる危険を予見・回避する能力を向上させるため、幼稚園や保育所、小学校において、子どもや教職員が参加・体験できる被害防止教育や不審者侵入対応訓練を行った。 （平成24年中、誘拐防止教室246回、不審者侵入訓練143回）	子ども、教職員	131	⑤	警察本部生活安全企画課
暴力団排除に関する教育	市町教育委員会等に対し、青少年用啓発リーフレット及び学校教育用DVDを利用した暴排教育の実施を働き掛けた。 また、警察職員を派遣した暴力団排除に関する学校教育並びにリーフレット及びDVDを活用した学校教育を実施した。 （実施校：36校、参加者数：12,025人）	中学生、高校生	131	⑤	警察本部組織犯罪対策課
青少年消費生活講座	一人ひとりが消費生活についての正しい知識を持ち、自ら判断し、行動する「自立した消費者」となるため、契約の知識や消費者トラブルの実態等を講義することにより、消費者トラブルを未然に防止することを目的に実施した。 （実施数：学校数15校、受講者数：1,965人）	高校生、大学生	133	① ⑤	環境生活部交通安全・消費生活課
三重県ホームプロジェクトコンクール	「ホームプロジェクト」という、生活の中から問題を見だし、その解決を目指して、主体的に計画を立てて実践する問題解決型の学習活動を通じて、消費生活問題に対する関心や理解を高めてもらうことを目的に実施した。 （応募者数：449人、最優秀賞：1人、優秀賞：6人）	高校生	133	⑤	環境生活部交通安全・消費生活課
親子で学ぶおかね教室	職業体験や勤労の対価として得たお金の使い方を子どもに学んでもらうプログラム等を実施し、「おかね」に関する正しい知識を身につけてもらうことを目的に実施した。 （開催日：8月29日、場所：総合文化センター、職業体験参加者：子ども：37人、その他来場者：129人）	小学生（高学年）	133	⑤	環境生活部交通安全・消費生活課

## ②交通事故の被害から守る取組の推進

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
交通安全メッセージ運動	父母・祖父母など身近な人と交通安全に関するお願いのメッセージをやり取りすることで、子どもの交通安全意識を高め、家庭からの交通安全意識の向上を図った。 （3,906組参加）	子ども、大人（主に保護者）	132	② ⑤	環境生活部交通安全・消費生活課
通学路の緊急合同点検の実施	通学路における痛ましい交通事故が相次いだことを受け、公立小学校及び特別支援学校小学部を対象に、保護者を含めて学校、地元警察署、道路管理者による緊急合同点検を実施した。 また、その結果を受けて、学校・教育委員会、道路管理者、警察が連携して対策案を策定し、実施に向けた取組を講じた。 （緊急合同点検箇所：1,879か所）	小学生	132	⑤	教育委員会事務局 生徒指導課 ※警察本部交通規制課及び環境生活部交通安全・消費生活課、県上整備部道路管理課と合同実施
交通安全指導者講習会	小学校及び幼稚園の保護者を対象に、街頭指導の方法等子どもへの交通安全指導に関わる内容の講習会を実施した。 （開催日：6月5日、10月30日、延べ参加者数：約100人）	大人（保護者）	132	④	環境生活部交通安全・消費生活課

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
交通安全教室	亀山東幼稚園の全園児を対象に警察官の話、身体を使ったアクティビティやダンス、大型紙芝居等を開催した。 (開催日：11月9日、参加者数：81人)	子ども	132	⑤	環境生活部交通安全・消費生活課
交通安全県民方向上事業	交通ルールを遵守し、交通マナーを向上させ、主に子どもを中心とする交通弱者の交通安全に対する県民力を高めることにより交通事故抑止を図ることを目的に、「交通安全アドバイザー」を活用し、県内の交通情勢の変化に迅速・的確に即した、出前方式の参加・体験・実践型の交通安全教育を推進した。 (幼児：7,838人、小学生：10,705人、中学生：78人、保護者：2,261人、高齢者：3,781人)	幼児・小・中学生 大人(保護者、高齢者)	132	① ⑤	警察本部交通企画課
交通安全カレンダーの作成	J A 共済連及び交通安全協会との連携により、小中学生から募集した交通安全ポスターを用いたカレンダーを作成し、子ども、保護者の交通安全意識の高揚を図った。 (カレンダー作成部数：3,300部)	小・中学生、大人	132	② ⑤	警察本部交通企画課
チャイルドシート推進モデル保育所・幼稚園の指定	県内各警察署に、「チャイルドシート推進モデル保育所・幼稚園」を指定し、保護者等による自主的な使用の促進を図った。 (チャイルドシート使用推進モデル幼稚園(保育)園指定数：180園)	大人	132	⑤	警察本部交通企画課

### ③災害から守る対策の推進

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
大人と子どもが共に学ぶ実践型訓練	東海地震、東南海・南海地震が今後30年以内には発生することが確実な状況で、地域で行う防災訓練等への参加を通じて、現在の小、中、高校生を将来の社会を支える地域の防災人材として育成していく必要がある。そこで、防災意識向上のための啓発を行うとともに、災害時には自らの身を守ることはもちろん、地域を守る担い手となることを目指し、子どもたちが保護者とともに参加する津波避難訓練などの実践的な訓練を行った。 (実施回数：50回)	子ども、大人	111	⑤	防災対策部防災企画・地域支援課
私立学校の耐震化の促進	私立学校の校舎等の耐震化を促進するため、学校法人の耐震化整備にかかる経費に対し助成を行った。 (助成法人数：5法人)	学校法人	221	⑤	環境生活部私学課
県立学校の耐震化の推進	県立学校の校舎等の耐震化(3校3棟)を推進し、平成25年3月31日現在の耐震化率は、99.1%となった。 また、専門家による非構造部材の点検を実施した。	県立学校の児童生徒・教職員	224	⑤	教育委員会事務局 学校施設課
公立小中学校の耐震化の促進	公立小中学校施設的安全性確保を目的に、校舎等の建物や非構造部材の耐震対策、老朽対策、防災機能強化のための工事を市町が実施する際に、補助制度の活用等について積極的に情報提供と助言を行った。	市町	224	⑤	教育委員会事務局 学校施設課
学校防災のリーダー養成	学校における平常時の防災教育・防災対策の充実を図るとともに、災害時に児童生徒の安全確保のための迅速かつ的確な対応が可能となるよう、学校防災のリーダーとなる教職員を養成した。	小中高等学校及び特別支援学校の教職員	224	⑤	教育委員会事務局 教育総務課
学校の防災機能強化	大規模災害発生時の児童生徒の安全確保のため、市町が実施する小中学校への非常用発電機、投光機、簡易トイレ、トイレ処理剤の整備、備品等の転倒落下防止対策、ガラス飛散防止対策について支援することにより小中学校の防災機能を強化した。 県立学校においては、全ての県立学校に児童生徒及び教職員分の防災毛布・保温シートなどを配備し、AEDの更新も行った。孤立想定地区の県立学校については、2日分の水・食料、衛星携帯電話を配備した。	小学生・中学生・高等学校及び特別支援学校の児童生徒、教職員等	224	⑤	教育委員会事務局 教育総務課

## (7) 社会的養護・支援を必要とする子どもへの支援

### ①社会的養護を必要とする子どもへの支援と自立支援

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
施設入所児童等援護事業	施設入所児童や被保護世帯児童等に図書カードを贈ることによって、生活意欲の向上を図った。 (贈呈数：2,181人)	児童福祉施設入所児童等	143	⑤	健康福祉部地域福祉課

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
私立幼稚園心身障がい児助成事業	私立幼稚園の心身障がい児の受け入れを促進するとともに、私立幼稚園における特別教育の一層の充実を図るため、心身障がい児を受け入れた幼稚園の経常経費のうち人件費支出、教育研究費支出、管理経費支出にかかる経費に対し助成を行った。 (助成法人数：21法人)	学校法人	221	⑤	環境生活部 私学課
児童養護施設等施設整備事業	施設入所児童等をできる限り家庭的な環境の中できめ細かくケアできるよう、児童養護施設等の整備に助成して、小規模ケア等の環境整備を推進した。	社会福祉法人	233	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局子育て支援課
里親養育相互援助事業	里親や里親希望者、養子縁組希望者等が集い、養育についての話し合い等相互の交流を定期的に行い、情報交換や養育技術の向上等を行った。 (交流行事等開催数：計38回、延べ参加者数 里親子等516人、児童福祉施設職員18人、児童相談所職員52人)	里親等	233	④	健康福祉部 子ども・家庭局子育て支援課
里親研修事業	里親及び里親希望者に対し、児童福祉法に定められた基礎研修、認定前研修、継続研修等を実施し、家族養護の推進を図った。 (参加人数：77人)	里親等	233	④	健康福祉部 子ども・家庭局子育て支援課
児童家庭支援センター運営費補助事業	児童相談所等の関係機関と連携しつつ、地域に密着したよりきめ細かな相談支援を行う児童家庭支援センターの運営事業費を補助することにより、地域の児童、家庭の福祉の向上を図った。	児童家庭支援センター	233	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局子育て支援課
児童養護施設入所児童への学習支援事業	児童養護施設に入所している児童が、学習習慣とともに社会性を身につけ、新たなことに意欲的に取り組む姿勢やさまざまな困難を乗り越える力をつけるなど、学習支援の実施を通じて、入所児童の自立を支援した。	児童養護施設入所児童(小学生)	233	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局子育て支援課
施設退所児童等の身元保証事業	児童福祉施設入所児童が施設を退所し、就職やアパート等を賃借する場合等における身元保証を行った。	児童養護施設施設長等	233	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局子育て支援課
児童入所施設措置費	養育・保護を必要とする乳幼児及び児童、経済的理由により助産を必要とする妊産婦、保護を必要とする母子等を児童入所施設に措置または里親に委託した場合、これに要する費用を支弁した。	社会福祉法人	233	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局子育て支援課

## ②児童虐待防止対策の推進

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
子ども虐待防止啓発事業	県民一人ひとりが子ども虐待問題に理解を深め、主体的な関わりを持てるように意識啓発を図ることを目的に、11月の子ども虐待防止啓発月間に県民参加によるオレンジリボンづくり運動、啓発講演会や街頭啓発などの取組を行った。	大人	233	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局子育て支援課
児童虐待対応協力員事業	児童福祉司に協力して児童相談業務を行う児童虐待対応協力員を各児童相談所に配置して、県の児童相談体制を強化した。	児童相談所	233	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局子育て支援課
児童虐待防止拠点における家族再生支援事業	子育て不安を訴える要支援家庭に対し、密度の濃い援助を行い、子どもとの関わり方を学べる場を提供した。また、児童福祉施設入所児童が家庭復帰するにあたり、家族再統合のための経過的ケアを行った。	児童養護施設	233	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局子育て支援課

## ③障がい児支援の充実

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
早期からの一貫した教育支援体制整備事業	特別支援学校のセンター的機能を発揮し、就学から卒業までの学校教育段階における、障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加の実現に向け、一貫した支援体制の充実を図った。 ・ハーツナルカルテ推進強化市町指定 ・特別支援学校のセンター的機能による地域支援 ・発達障がい支援員(3人)による高校への相談支援 ・特別支援教育連続講座「シードプロジェクト」開催(7日間20講座)	障がいのある幼児児童生徒及びその保護者、県職員、市町職員	223	⑤	教育委員会事務局 特別支援教育課

取組名	取組概要	対象	施策番号	条例基本	担当課
特別支援学校就労推進事業	特別支援学校高等部生徒の進路希望を実現するために、教育課程の改編を進めるとともに、外部人材の活用により、就労の実現を図った。 ・キャリア教育サポーター(5人)の雇用 ・職業アセスメントの活用 ・技能検定の実施	特別支援学校高等部生徒	223	⑤	教育委員会事務局 特別支援教育課
特別支援学校企業就労実現支援緊急雇用創出事業	特別支援学校に職域開発支援員を配置し、企業(事業所)への雇用促進要請や理解啓発等に取り組み、就労率の向上を図った。 ・職域開発支援員(9人)の雇用	特別支援学校高等部生徒	223	⑤	教育委員会事務局 特別支援教育課
京の実りハピリテーションセンターの地域療育支援事業	県内の療育センター等に医師や理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などが出向き、療育センター等の職員や保護者からの相談に基づき、診察・相談・助言を行った。また、東紀州地域などの遠隔地にも出向き、広域的・専門的な支援を行った。 ・障がい児養育相談：8か所 延べ35回 ・巡回療育相談：6か所 延べ19回 ・乳幼児発達相談：4回 ・特別支援学校療育相談：4校 延べ22回 等	乳幼児・障がい児(者)	232	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局 子育て支援課
小児心療センターあすなろ学園市町支援事業	三重県に生まれ育つ発達障がい児が、生涯にわたって当該市町で支援が受けられるような「発達障がい児支援システムの構築」に向けて、各市町の保健・福祉・教育部門と連携し、「市町の発達総合支援室・機能」の設置を推進した。具体的な取組として、 ①「市町の発達総合支援室・機能」の設置の推進 ②早期発見・早期支援のため、保育所等に「C.L.M.I」と「個別の指導計画」の導入 ③市町職員の専門性向上のため、「みえ発達障がい支援システムアドバイザー研修」の推進を行った。	乳幼児・障がい児	232	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局 子育て支援課
あすなろ学園講演会・シンポジウム	あすなろ学園の医療や療育の内容をシンポジウムで発表するとともに、三重県における発達障がい支援等について意見交換を行い、発達障がいに対する普及・啓発活動を行った。	関係機関職員及び一般県民	232	⑤	健康福祉部 子ども・家庭局 子育て支援課

【施策番号】

みえ県民カビジョンの施策番号

【条例基本】

三重県子ども条例第11条に規定する施策基本事項の番号

- ① 子どもの権利について、子ども自身が知り、学ぶ機会及び県民が学ぶ機会の提供
- ② 子どもが意見を表明する機会の設定
- ③ 子どもが主体的に取り組む様々な活動への支援
- ④ 子どもの育ちを見守り、支えるための人材の育成及び多様な主体が行う活動促進のための環境整備
- ⑤ その他、子どもの育ちを見守り、支えるための取組